

ほっと♡ゆうばり

第
14号
2008年
11月1日

編集・発行：ゆうばり再生市民会議 広報部

先月10日(金)、第14回目の再生市民会議を清水沢の市民研修センターで開催しました。今回は最初から分科会に分かれず、出席の運営委員26名、市長、事務局4名の全員が車座に着席して、6時半から2時間余り(約170分間)の話し合い。他に東京都職員6名が参加見学しました。会議の内容を記します。

1. 分科会について (福祉・環境・観光)

基本的に全体会議とは別日時に開催する。また、運営委員が他の分科会に参加できるよう、できるだけ別々の日程で分科会を開催し、各分科会の活動状況について事務局から運営委員に随時、情報を提供する。

なお、分科会は公開を基本原則とし、市民参加を積極的に促す。

2. 全体会議について

1) 定例会議

分科会と全体会議を別々に開催すると、参加する運営委員の負担が増えるため、全体(定例)会議の開催は3ヵ月に一度とする。(次回は来年1月の第2金曜日に開く予定)

2) 臨時会議

各分科会から全体会議にはかかる案件があれば、必要に応じて臨時会議を開催する。臨時会議は、定例会議開催月以外の第2金曜日に開催する。

3) 議事進行役について

これまで園委員に議事進行役をお願いしてきたが、今後の議事進行は、各分科会の持ち回りとする。(進行役を各分科会から選出)

3. こども部会について

運営委員が子育て世代の生の声を聞き、どのようなニーズがあるか把握したうえで、具体的な活動方針を検討する。なお、当面は福祉分科会の活動の一環として、取り組みスタートする。

4. まちづくり部会について

今後、事務局的な役割を担う広報部を中心とした全体会議のなかで、市民生活に必要なテーマを絞り、まちづくり部会のあり方を考える。

5. 運営体制について

これまで事務局を市役所の地域再生グループが担当し、広報部は広報「ほっと♡ゆうばり」の編集をしてきたが、今後は全体(臨時)会議召集の要否等を検討する仕事があるので、広報部に事務局的な役割を持たせる。なおこれに伴い、広報部の仕事量が増えるので、運営委員から新たに広報部員を募って、円滑な運営を目指す。

……話し合いを要約すると、こんな感じでしょうか。30人の語り口はそれぞれ個性あふれて真剣かつユーモアあるものです。人前で自分の考えを言葉にして話すことの、むずかしさと恥ずかしさがつきまといますが……参加されると雰囲気は一目瞭然、あなたもしゃべりたくなる……



夕張いいとこ発見ウォーキング

夕張いいとこ発見ウォーキング

★10月19日(日) 午前9:30~11:00

★コース JR清水沢駅⇒南部(三菱大夕張鉄道跡)⇒そば店⇒南部小学校跡⇒営林署⇒森林鉄道機関庫⇒青葉町⇒清水沢ダム(終了)

鮮やかな紅葉を眺めながら、南部地区の普段見過ごしている炭鉱遺産などを再発見するウォーキングに16名が参加しました。秋晴れ、青空、真っ赤な紅葉の下、歩いて感じた感想をご紹介します。

○40代男性……「あちこちで炭鉱遺産がどんどん壊されている。形あるものはいつかは壊れてしまうが、あえて積極的に壊さないでほしい」

●40代男性……「今日は旧三菱大夕張鉄道の保存車両を見た後、森林鉄道の機関庫を見学できた。今後、仮にどちらかが無くなっても南部の往時を懐かしむことはできるが、想像力は低下すると思う。史跡や建築物は全てが絡み合っており、イメージできるものだ」



三菱大夕張鉄道の車両

○50代女性……「炭鉱遺産は、市民と行政が一体となって見守ることが必要。勿論、市外の私たちにもできることはあると思う」

●50代男性……「地元の方々にとっては何の変哲もないものでも、史跡はマチの歴史を語るうえでも貴重なもので壊さないでほしい。むしろ、そのまま崩れていってほしい」

○30代男性……「産業遺産は地元の人でもなかなか価値が判らないもの。しかし、廃止されたり壊されたりして初めて価値に気付く。地元を含めた十分なディスカッションが必要」



森林鉄道機関庫



